長崎県歯科医師国民健康保険組合員における生活習慣病対策としての歯周疾患調査

1 九州歯科大学口腔機能科学専攻口腔治療学講座歯周病制御再建学分野
2 長崎県歯科医師会
○ 村岡 宏祐1、角町 正勝2、道津 剛佑2、笠井 宏記1、石野 智敬1、横田 誠1
The dental health survey to memberships of dentist in the Nagasaki National Health Insurance Organizations for measure of life-related disease
1 Science of Oral Functions, Department of Cariology and Periodontontology,
Division of Periodontontology Kyushu Dental College
2 Nagasaki Dental association
○ Kosuke Muraoka1, Masakatsu Tsunomachi2, Takesuke Doutsu2, Hironori Kasai1,
Tomohiro Ishino1 and Makoto Yokota1
キーワード：CPI、全身状態、長崎県

【目的】
歯周疾患は、例えば糖尿病、虚血性心疾患、肥満、誤嚥性肺炎など多くの全身疾患のリスクファクターとして広く研究が行われている。特に糖尿病において歯周疾患は第6の合併症として認知されているが、糖尿病のリスク因子として両方向の関連性も注目されている。当教室において、以前、歯周病罹患者の高感度 CRP 値が上昇していることや歯周基本治療により高感度 CRP 値が改善することなどについて報告してきた。今回、長崎県歯科医師国民健康保険組合員を対象に多項目にわたる全身状態と歯周疾患（CPI）について大規模調査を行い全身状態と歯周疾患の関係について解析検討したので報告する。

【材料および方法】
研究対象者は、長崎県歯科医師国民健康保険組合員の歯科診療所の歯科医師、ならびにその従業員の1034名である。解析パラメータは、CPI（最大値）、唾液中から GOT, ALP, 唾液ヘモグロビン、総菌数、P. gingivalis を測定した。年齢、身長、体重、最高血圧、最低血圧、喪失歯数は、自記式質問票に記載してもらった。統計処理は、歯周病学的パラメータならびに全身学的パラメータについて単回帰分析と重回帰分析を行った。

【結果】
CPI を目的変数とした場合の単回帰分析では、GOT、唾液ヘモグロビン、P. gingivalis、年齢、身長、体重、最高血圧、最低血圧、喪失歯数に有意な相関を認めた。重回帰分析で交絡因子の調整を行うと、GPT、LDH、年齢、身長、体重、最高血圧に有意差を認めた。

【考察】
このことは、CPI つまり歯周組織の炎症が、肝臓や心臓に影響していることが示唆された。